

助成年度：平成 12 年度

[所属] 東京大学大学院 新領域創成科学研究科

[役職] 教授

[氏名] 味埜 俊 (他計 6 名)

[課題]

大学における環境教育の国際比較および自然環境との共存をめざした 環境教育カリキュラムの構築

[内容]

本研究は、アジア・アメリカ・ヨーロッパの各地域を代表する 3 大学（東京大学（UT）・スイス連邦工科大学（ETH）・マサチューセッツ工科大学（MIT））が共同して実施している地球在続のための研究プロジェクト（Alliance for Global Sustainability、AGS プロジェクト）の中の「環境教育部会」を母体としておこなったものである。その目的は、さまざまな専門をもつ学生に対する一般教育としての環境教育の現状を調査し、その内容を整理し、それらをもとにして、専門教育の場である大学・大学院において実施すべき環境教育の体系および手法を構築することである。そのための具体的な作業として以下の事を実施した。

- 1) 学生に対する環境配慮意識調査：各大学の学生に対する共通の質問票を作り、環境に対する学生の認識についての情報を得ることを試みた。なお、調査は AGS パートナー大学である 3 大学で実施したが、本報告書提出期限までに日本以外での調査結果をとりまとめることができなかつたので、本報告書では日本における集計結果のみをとりまとめている。
- 2) 環境教育の実態調査：日本の代表的大学の環境工学カリキュラムについて調査した。
- 3) 環境教育の実践における問題点の整理と対応策の提案：AGS における環境教育実践のための事業として、さまざまな分野からの世界中の大学院生を集めて実施した「Youth Environmental Summit (YES)」(持続的発展をテーマとした 2 週間のサマースクール)での経験を検討することにより、環境教育カリキュラムに必要な要素・事項、あるいは問題点を抽出し整理した。今後、国際的な環境教育の経験に基づくノウハウや情報を生かして、一般性のより高い環境教育カリキュラムを構築してゆく必要がある。